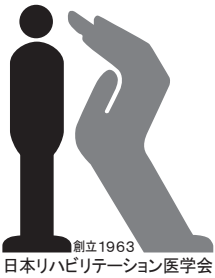


リハ医学会近畿地方会 Newsletter



平成17年度 第2号
平成17年7月11日

日本リハビリテーション医学会 近畿地方会事務局
独立行政法人 労働者健康福祉機構 関西労災病院
リハビリテーション科 住田 幹男

お問合せ先
〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-8-1
プロメナ神戸16階
株式会社プロアクティブ内
TEL:078-366-5050 FAX:078-366-5051
E-mail: kinkireh@pac.ne.jp



大阪府における地域リハビリテーション推進事業 —豊能圏域を中心に—

逢坂 悟郎

箕面市立病院(大阪府豊能圏域 地域リハビリテーション広域支援センター)
リハビリテーション科



はじめに

平成12年度から地域リハビリテーション(以下、リハ)推進事業が全国的に展開されたが、大阪府では豊能圏域をはじめとして急性期および回復期を網羅する病院間ネットワークの構築に成果を上げており、しだいに大阪府下に広がりつつある。

地域リハビリテーション推進事業とは

高齢者や障害者の寝たきり予防には、脳卒中や骨折などの発症早期から急性期リハが開始され、それに続いて回復期リハが行われることが必要である。また、病状が安定すればその機能を維持向上させつつ、住み慣れた地域において生き生きとした生活を送るための維持期リハが重要となる。

本事業は、高齢者や障害者(児)の様々な状況に応じたリハサービスが、切れ目なく効果的に提供されるようなシステムの構築を図ることを目的とし、平成12年度から全国的に開始された。事業の実施主体は都道府県であり、県全体のリハの動向を掌握し指導する。おおむね二次医療圏ごとに広域支援センター

を設置し、県レベルのセンターはその指導と補完にあたることになっている。

豊能二次医療圏における 地域リハ推進事業

1. 急性期・回復期リハを担う 病院間のネットワーク構築

本事業は大阪府においても平成12年度より開始され、当院は豊能圏域における地域リハ広域支援センター(以下、広域支援センター)に指定された。大阪府では広域支援センターと保健所が協力して事業展開する事になっており、当圏域でも両者が協力しつつ事業を立ち上げた。

我々は広域支援センターとしての活動の第一歩として、救急医療機関(以下、急性期病院)と維持期リハとの橋渡しの役割を担う回復期リハの病院(以下、回復期病院)を結びつけることを重点目標とした。従来、当圏域には複数の病院間を結ぶネットワークは存在しなかったため、当院リハ科医師が回復期病院を1病院ずつ訪問して趣旨説明を行い、平成12年11月、8病院より構成される「豊能地区回復期リハ病院連絡会」

を設立した。この会は各病院の病床管理を行う医師により構成された。設立当初は各病院の情報を提供しあい、お互いの状況を理解しあうことで連携を強めていった。さらに、この会での協議の結果、急性期から回復期への流れを円滑にする目的で、急性期病院とも連携していくことが合意された。

CONTENTS

- 大阪府における地域
リハビリ推進事業 1～2頁
- 日本リハ医学会総会研修
単位に関する議案報告 2頁
- 第19回近畿地方会ご案内
会長挨拶 3頁
- 日本リハビリテーション医学会
近畿地方会専門医・認定臨床医
生涯教育研修カレンダー
- 編集後記 5頁

この合意にもとづき当院リハ科医師が、主だった急性期病院を1施設ずつ訪問し連携についての協議を行った結果、平成13年2月、主要な急性期病院3施設と回復期病院5施設より構成される「豊能地区リハ病院連絡会」を設立した。この会は各病院の医師と医療相談員が参加し、毎月開催されることになった。

この会では病院間の情報交換や早期転院への話し合いがなされており、これにより病院間の相互理解や連携が改善しつつあり、急性期から回復期への転院が円滑化している。病院間連携がある程度充実したため平成13年10月からは3ヶ月に1回の開催としているが、「回復期病院別の入院待機期間」など

の適宜更新が必要な情報については池田保健所に集約され、毎月更新で会員の病院に発送されている。急性期病院ではこれを参考にして患者の紹介先を検討している。

病院間連携が進むにつれて会員施設数が増加しつつあり、平成17年3月現在、発足時より12施設増えて計20施設となり、圏域内の主要な病院のほとんどが会員となった。

まとめ

地域リハ推進事業は平成12年度から全国的に展開された。当院は大阪府豊能圏域における広域支援センターに指定され活動を開始した。まず回復期リハを担う病院からなる連絡会を設立し、

これに続いて急性期病院に呼びかけ、回復期・急性期病院間の連携強化のための会合を定期的で開催するようになった。この会を通じて病院間の相互理解や連携が改善しつつあり、急性期から回復期への転院が円滑化している。

以上のような急性期および回復期を網羅する病院間ネットワークは豊能圏域以外にも広まりつつあり、すでに三島圏域、泉州圏域で展開中である。近い将来、大阪府全域で同様の病病連携が拡大し、府民がどこに住んでいようとも必要な医療サービス及びリハサービスを受けられるよう他医療圏の広域支援センターと協力しつつ活動していきたい。
